

人口過密都市に存在する厚木基地

航空機騒音の実態

8月下旬に米海軍空母艦載機が飛来して以降、連日激しい航空機騒音が続く、市には毎日多くの苦情が寄せられています。艦載機の騒音は、もっとも深刻な問題の一つだった夜間連続離着陸訓練(Night Landing Practice 以下、NLP)が、その約90%を硫黄島訓練施設に移転したものの、依然として市民生活に大きな影響を与え続けています。今回の特集では、空母キティホークと密接に関係する航空機騒音の実態、そして騒音解消に向けた市の取り組みについて解説します。



住宅地上空を、屋根をかすめるように飛ぶ艦載機



NLPによる艦載機の光跡

空母と騒音

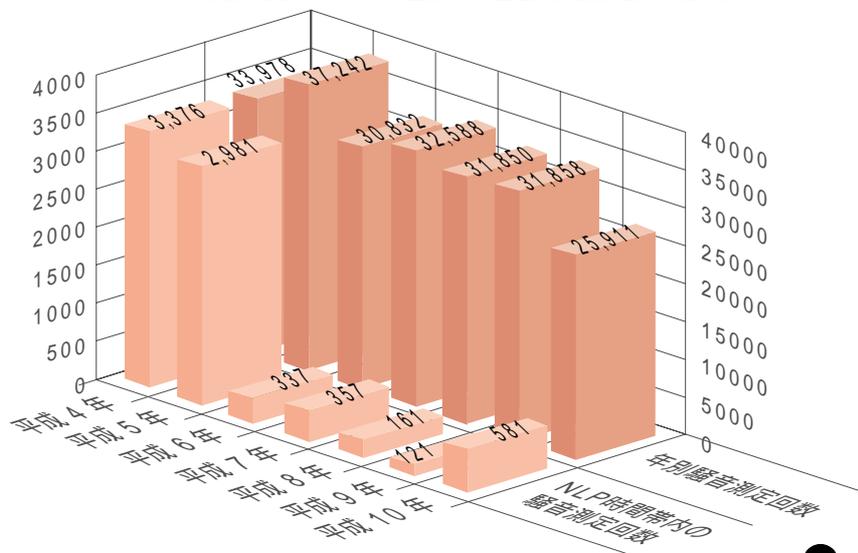
厚木基地は、国が提供し米軍と自衛隊が共同使用しています。横須賀を事実上の母港とする米空母キティホークには、多数の軍用機が積載されており、空母入港中およそ70機もの艦載機がこの厚木基地を拠点として整備・訓練などを行います。その結果、周辺住民に騒音被害をもたらしています。

しかし、こうした米軍機の訓練日程や飛行スケジュールについて、米軍はNLPを除いて大和市や綾瀬市など地元自治体にさえ、いささか公表していません。

いつ始まるかわからない不安、そして突然穏やかな市民生活を踏みしめる艦載機騒音。こうした状況に対応できるよう、市では米軍や空母の動向など、さまざまな角度から情報を収集しています。

年別騒音測定回数とNLP時間帯内の測定回数の比較

騒音測定は70デシベル以上が5秒以上継続した回数を計測します。



NLP実施状況・比率

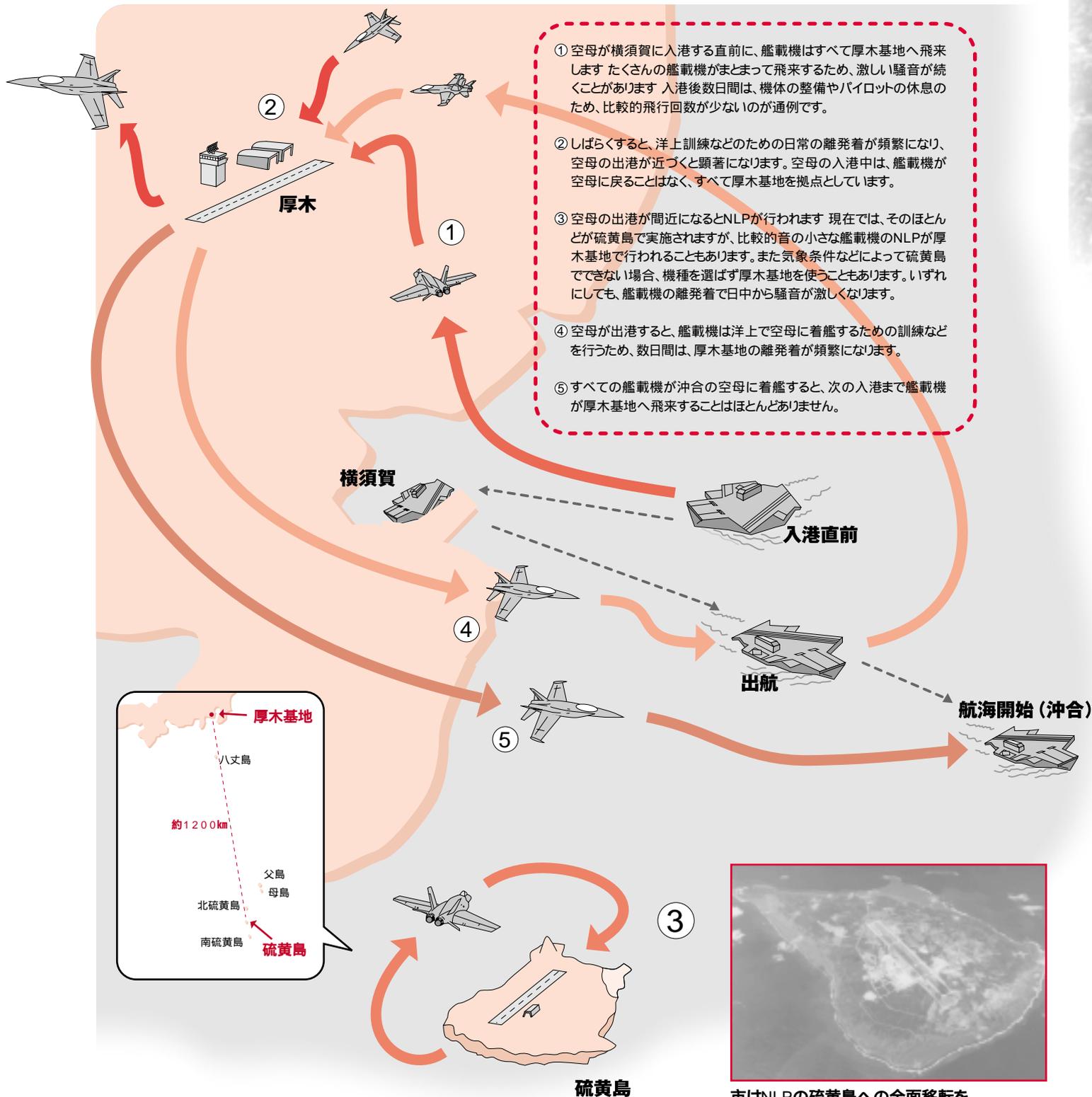
年		平成4年	平成5年	平成6年	平成7年	平成8年	平成9年	平成10年
厚木基地	回数	1,748	1,673	271	278	137	91	381
	比率%	38.0	19.1	14.9	5.0	3.8	2.1	10.1
硫黄島ほか	回数	2,846	7,098	1,542	5,237	3,432	4,337	3,374
	比率%	62.0	80.9	85.1	95.0	96.2	97.9	89.9
合計	回数	4,594	8,771	1,813	5,515	3,569	4,428	3,755

空母キティホークの入出港とそれに伴う厚木基地周辺の騒音

米空母キティホークの横須賀入港に伴い、艦載機が厚木基地へ飛来すると、厚木基地を拠点とした飛行活動は数週間から数カ月間にも及びます。この間の騒音被害をもたらずな飛行活動は下図に示したものです。空母の寄港時期などについては米軍が国際情勢の影響を強く受けるため、その動向は常に流動的なものとなっています。



米空母キティホーク



- ① 空母が横須賀に入港する直前に、艦載機はすべて厚木基地へ飛来します。たくさんの艦載機がまとまって飛来するため、激しい騒音が続くことがあります。入港後数日間は、機体の整備やパイロットの休息のため、比較的飛行回数が少ないのが通例です。
- ② しばらくすると、洋上訓練などのための日常の離発着が頻繁になり、空母の出港が近づくと顕著になります。空母の入港中は、艦載機が空母に戻るのではなく、すべて厚木基地を拠点としています。
- ③ 空母の出港が間近になるとNLPが行われます。現在では、そのほとんどが硫黄島で実施されますが、比較的音の小さな艦載機のNLPが厚木基地で行われることもあります。また気象条件などによって硫黄島でできない場合、機種を選ばず厚木基地を使うこともあります。いずれにしても、艦載機の離発着で日中から騒音が激しくなります。
- ④ 空母が出港すると、艦載機は洋上で空母に着艦するための訓練などを行うため、数日間は、厚木基地の離発着が頻繁になります。
- ⑤ すべての艦載機が沖合の空母に着艦すると、次の入港まで艦載機が厚木基地へ飛来することはほとんどありません。

厚木基地
八丈島
約1200km
父島
母島
北硫黄島
南硫黄島
硫黄島



市はNLPの硫黄島への全面移転を国や米軍などに働きかけています。

人口過密都市に存在する厚木基地

騒音のない静かな空を目指して ～ 基地問題への取り組み



市では、厚木基地の騒音などの問題について、市の最重要課題の一つと位置づけ、積極的に取り組んでいます。航空機騒音の解消に向けて、市として最終的には基地の返還を目標としていますが、現状の騒音被害を少しでも軽減するため、短期的な課題として「NLPの硫黄島への全面移転」と「基地開放日の展示飛行(デモンストレーションフライト)の廃止」の2つについて、重点的に国や米軍などに働きかけています。



再三の中止要請にもかかわらず展示飛行は運動会当日に行われた。
(9月25日 引地台小学校)

中止要請にもかかわらず展示飛行、NLPとも実施

基地開放日の展示飛行は艦載機による低空飛行・急旋回・急上昇・編隊飛行など、周辺に住宅が密集する場所で許されるはずのない、危険きわまりない飛行が行われることから、全面的な廃止を求めています。しかし今年も再三の中止要請にもかかわらず9月25・26日に実施され、住民を激しい騒音と墜落の恐怖にさらし、さらには子どもたちのたいせつな行事である運動会にも大きな影響を与える結果となりました。

また、NLPは、平成5年に硫黄島訓練施設が完成して以後、その約90%が硫黄島で行われていますが、硫黄島の天候などによっては厚木基地で実施される可能性も残っています。

10月5日に通告された今回のNLPについても、市や市議会などが事前に米海軍厚木航空施設司令官などに強く中止要請市、市議会とも10月8日(日)を行いました。司令官からは「騒音の軽減には最大限努力する」との回答がありました。結局、10月13日から17日(土)も含めて7日間実施されました。この間、基地の北1D地点での騒音測定回数は264回にものぼり、17日(日)に行われた「よかフェスティバル(大和薪能)」にも影響が出たほか、市民から「いつまで続くのか」「眠れない」などの苦情が多数寄せられました。

市では、これら2つの課題について、今後も関係機関に強く要請を行っていきます。

問い合わせは、市役所基地対策課基地対策担当
☎(260)5310へ。

電子メール:
kichi@gov.city.yamato.kanagawa.jp

ホームページURL:
http://www.city.yamato.kanagawa.jp

ゴミと資源から見る環境問題

Vol. 6

今回は「生ごみ」を考えてみます。

今や世界中からおいしいものが手に入り、季節外れの味覚も常に味わえる時代です。このことは同時に、わたしたちが口にするまでには多くのエネルギーが費やされている(産地からの輸送、温室栽培などさまざまなエネルギー)ということです。

しかし「飽食の時代」、発生する残飯が問題です。その処理には、さらに「燃やす」というエネルギーを費やさなくてはなりません。

もともと生ごみなどの有機物は、「土に還す」という無害で無料の自然の摂理、最良のリサイクルルートがしっかりとあって、その循環は人間に多くの恩恵をもたらしていました。しかし、アスファルトで覆われた街で生活し、高層住宅に住む現代人は手軽に土に還すことが難しく、その処理は「燃やす」ことにゆだねざるをえません。

大和市では、「すべての燃やすごみのうち12%が生ごみ(平成9年度)という状況です。そして、この生ごみの70%が水分なので、ごみ収集車10台が生ごみを積むと7台は水を運んでいることになります。

わたしたちは毎日生ごみを排出しています。「食」を楽しむ一方で、知恵と工夫をして少しでも生ごみを減らしたいものです。まずできることは、食べ残しが出ないように心がけることです。そして、土に還して、たい肥などに利用できる人は積極的にリサイクルしてください。

市は「生ごみリサイクル」について研究していますが、特に「土に還すことができない都市環境」での方策を研究しているところです。

次回以降、具体的な取り組みを紹介していきます。



今月の提案

生ごみが土に還るように、
わたしたちも少しずつ
原点に帰りましょう。

市や協議会の要請活動

基地に関わるさまざまな問題については、市や市議会などが互いに連携しながら積極的に取り組んでいます。また、市民各層の代表者で組織する「大和市基地対策協議会」、そして県をばじめ基地周辺の自治体が協力して、騒音などの問題に取り組む各協議会も同様に活動しています。

こうした取り組みのついでに、国や米軍に対する要請活動があります。市などが今年に入って実施した要請活動は下表のとおりです。これらのほかにも、神奈川県と厚木基地周辺7市で構成している「厚木基地騒音対策協議会」、また県内のすべての基地に関する市や県で構成する「神奈川県基地関係県市連絡協議会」などでも、同様の要請を行っています。



8月30日、浜田防衛政務次官に要望書を直接手渡す。

平成11年の要請活動一覧表

日付	要請内容	要請者	要請先
2/16	(1/22 空母キティホーク入港、2/12 NLP通告) 厚木基地における夜間連続離着陸訓練の中止要請 (2/23~25 NLP実施)	大和市長	厚木航空施設司令官
3/25	(3/2 空母キティホーク入港) 基地交付金の配分等について要請	大和市長	自治大臣
6/8	コンピューター2000年問題に関する航空機の安全確保について要請	大和市長	厚木航空施設司令官・海自
8/20	厚木基地オープンハウスにおけるデモンストレーションフライトの中止要請 (8/25 空母キティホーク入港)	大和市長	厚木航空施設司令官
8/30	①平成11年度厚木基地の早期返還と基地対策の抜本的改善に関する要望書を提出 ②「周辺事態法」の適切な運用について要請	大和市基地対策協議会	① 外・防・施・米大 ② 総・外・防・施
9/20	デモンストレーションフライトの中止要請 (9/25,26基地開放並びに展示飛行実施)	大和市長	厚木航空施設司令官
10/8	(10/5 NLP通告) 厚木基地における夜間連続離着陸訓練の中止要請 (10/13~19 NLP実施) (10/23 空母キティホーク出航)	大和市長	厚木航空施設司令官

【要請先】海自=海上自衛隊第4航空群司令、外=外務大臣、防=防衛庁長官、施=防衛施設庁長官、米大=駐日米国大使、総=内閣総理大臣

厚木基地を抱える大和市では、艦載機騒音はもちろん、まちづくりの観点からもさまざまな、そして深刻な影響を受けています。安全で静かな大和市の実現をめざし、市では、市民と行政が一体となって、こうした問題の早期解決に向け、今後も関係機関に強く働きかけていく考えです。

なお、厚木基地に関連した資料や最近の市の取り組みなどの情報は、市のホームページでも紹介しています。ぜひ、こちらもご覧いただき、ご意見をお寄せください。